

国際的なサプライヤー向けの展示会 ドイツ「IZB」に出展 日東精工グループの技術力の高さをアピールしました

10月22日から24日までドイツ ニーダーザクセン州ヴォルフスブルク市で「IZB (国際サプライヤー展)」が開催され、日東精工もこの展示会に初めて出展しました。今号はこの展示会報告をいたします。

当社では中期経営計画のなかで、よりグローバル化を推進していくことを謳っています。既に事業展開を進め安定基盤を築いているアメリカ、中国、東南アジア*だけでなく、近年、成長著しいインドでのM&Aを実施しているほか、ヨーロッパ市場での新規開拓&深耕も成長戦略のひとつに置いています。

2023年1月に日東精工グループの日東精工アナリテック(株)の現地法人「日東精工アナリテックヨーロッパ」をドイツ・デュッセルドルフに設立し、欧州市場への事業拠点にしています。そして2022年4月には、ドイツ・ハノーバーで開催された「ハノーバーメッセ」(世界最大規模の産業見本市)2023年3月には「ファスナーフェアグローバル(シュトゥットガルト)」にも出展し、日東精工グループの技術力の高さと製品ラインナップの充実を欧州市場にアピールしてまいりました。



日東精工グループの展示ブース

「IZB」(Internationale Zuliefererbörse 英語ではInternational Suppliers Fair)は2001年から隔年で開催される展示会です。もともとはドイツの自動車メーカー・フォルクスワーゲン社の社内展示会としてはじまったものですが、年々、規模が大きくなり、今では国際的なサプライヤー業界の展示会としての地位を確立しています。当社では自動車分野を重点注力分野と位置づけていますので、この「IZB」も当社戦略に沿うものとなります。



展示会初日には日本から当社代表取締役社長荒賀誠も視察(写真上)、IZBにはフォルクスワーゲンをはじめ世界の自動車関連サプライヤーが多数出展

今年「第12回IZB」では6つの展示ホールを使って世界37か国から自動車部品業界840社以上が出展、4万人以上が来場しました。当社ではさまざまなファスナー(工業用ねじ)や異種金属結合「AKROSE」などの冷間圧造製品を展示したほか、軽量ねじ締めユニットを用いてコンタミ対策ねじのデモも実施。また精密プレス部品、粉体抵抗測定システムなども展示し、日東精工グループの総合力も訴求することができ、世界有数のメーカ担当者をはじめ多くの方に高い関心をいただきました。

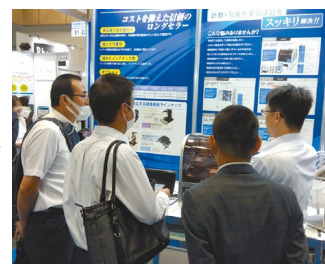
「計測・検査・センサ展」に出展し 技術力の高さをアピール!

10月2日から4日まで「インテックス大阪」を会場に、またオンラインも併用して「第27回ものづくりワールド 大阪」が開催されました。これは部品、設備、計測製品などを扱う企業約1,200社が一堂に会する西日本最大の展示会ですが、そのなかで同時開催された「第5回計測・検査・センサ展」に、当社も出展いたしました。

当社のブースでは、推力をほぼゼロにする「単軸自動ねじ締め機」を参考出展したほか、超高精度なねじ浮き検出とねじ締め直前にねじに付着したコンタミを除去するコンタミ対策ユニット搭載の「自動ねじ締めロボット」をはじめ、ゲージに加わるトルクを計測してタップ成形の異常を検知する「めねじ検査装置」、あるいは小物部品を人工知能（AI）で画像解析し寸法・キズの有無などを検査する「部品



検査選別装置」、さらには部品をカウントして袋詰めする「計数包装機」など、生産現場のあらゆる課題解決をご提案する当社およびグループの計測・検査装置を展示し、日東精工グループの技術力の高さとシナジー力を強くアピールすることができました。



市民センター（日東精工アリーナ） ネーミングライツを継続

当社では本社をおく京都府綾部市の綾部市市民センター（子どもから高齢者までスポーツ、文化活動ができる複合型施設）のネーミングライツを2019年に取得し、同センターは「あやべ・日東精工アリーナ」の愛称で広く親しまれていますが、今般、契約を5年間延長することが決定。10月8日にネーミングライツ契約締結式が行われました。

2022年からはあやべ球場も「あやべ・日東精工スタジアム」と命名されていますが、こういったネーミングライツ取得による運営支援を通して、地元の方々の各種活動をこれからもサポートしていきます。

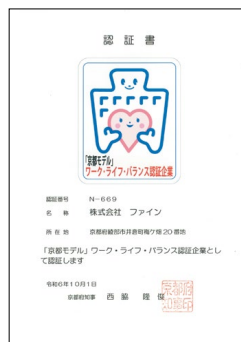


山崎善也綾部市長（左）と
当社代表取締役社長荒賀 誠

子会社の「ファイン」も 働きやすい会社です

工業用ファスナーの検査、包装・発送業務を行う当社連結子会社の㈱ファインが「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス推進企業認証制度で「宣言企業」から『認証企業』にステップアップしました。

同社は小中学校へ通う子どもをもつ女性が多く、学校行事や家族のことで平日に会社を休まなければならない場合があります。有給休暇が取りやすく、働きやすい環境となっています。この認証は従業員が300人以下の中小企業を対象にしたもので、日東精工グループでは日東公進㈱に次ぐものです。



◀ファインのホームページが
リニューアル

▶「京都モデル」
ワーク・ライフ・
バランス推進企業認証制度



地域の人たちにモノづくりの魅力を伝える

10月6日に開催された地域イベント「あやべ産業まつり」で、当社のねじ締め機をデモ展示しました。ふだん見慣れない機械とその動きなどに子どもたちだけでなく大人の方々も興味津々の様子でした。また、12月14日には、あやべ観光協会主催で大人の社会見学「オープンファクトリー」が開催されますが、この企画にも当社日東精工も協力させていただくことになっています。



産業まつりでねじ締め機に見入る子どもたち(右上)とオープンファクトリーの案内ちらし(右)

地域紙 あやべ市民新聞の応援も力に

あやべ市民新聞は綾部市では全国紙よりも購読者が多い、地元で愛されているコミュニティ紙です。10月11日付紙面では、当社代表取締役社長荒賀誠とシビ・ジョージ駐日インド大使との面談が一面で紹介され、当社の海外戦略などを掲載いただきました。なお、同じ一面には当社若手有志が、会社とは別に立ち上げた勉強会で、山崎善也綾部市市長に「ねじの街・あやべ構想」を語る模様も掲載されています。こういった地域メディアの応援も、当社の力になっているのです。



健康コラム

人生100年時代を見据えて

当社は京都経済センターで開催された「第11回きょうと健康づくり実践企業表彰」で最優秀賞を受賞。京都府内において、社員の健康づくりに関してナンバーワンの評価をいただいています。

右の写真は当社代表取締役会長の材木正己が10月8日に「アート＆テクノロジー・ヴィレッジ京都 (ATVK)」で「健康で幸せを育む『絆経営』」という演題で講演をしたときのものです。ATVKでは異業種・異分野の企業間交流を促進させ、そこで生まれた課題解決のアイデア等を新たなビジネスや商品開発等につなげていくことを目的としていますが「テーマ別部会」のひとつ「フェムテック部会」(女性のウェルビーイングについての勉強会)にて、日東精工の事例などを紹介いたしました。

また右上の福知山市の広報誌「ふくちやま」で家族5人そろって登場しているのは、当社財務課財務係長



の佐藤遼です。佐藤は病気療養で長期休職。骨髄移植手術を受け快復し、その後、職場復帰を果たしています。福知山市は「献血と骨髄バンクの支援を広げる都市宣言」を行っており、10月、骨髄バンク推進月間に関連して、広報誌「ふくちやま」の骨髄バンク特集で、佐藤を体験者のひとりとして紹介しています。佐藤は広報紙での登場だけでなく、10月11日に開催された同市主催の講演会・パネルディスカッションにも講師として参加。自らの体験を語るなかで、日東精工の健康経営、より具体的にいえば、病気になっても安心して治療に専念でき、職場への復帰に対しても心配ない環境づくりがなされていることなども紹介しました。

前号のニュースレターの巻頭で当社の健康経営について詳しく紹介しましたが、トップ、担当者をはじめ、従業員が日々、さまざまな形で健康について発信しています。



赤誠先手

代表取締役社長

荒賀誠

帝

国ホテルの初代料理長を務められた村上信夫さん。テレビなどではその優しい笑顔で知られる方でしたが、太平洋戦争に出征されていた。死と隣り合わせのなか、出撃前夜、上官から「あり合わせでうまいものをつくってやってくれ」と請われてカレーを調理。美味そうに頬張っていた仲間の姿を生涯忘れることができないのだそう。

また、戦後しばらくシベリアに抑留されていたとき、極寒の地で病に伏し生死をさまよう友の「パイナップルが食べたい」という声に、なんとかリンゴを手に入れて、それがパイナップルに見えるように輪切りに

し、芯をくり貫き甘く煮て食べさせたことがありました。最期の願いをかなえるつもりが、リンゴの力もあつてか持ちなおし、快復した当人に感謝されたそうです。

村上さんは「愛情」「工夫」「真心」の三つの言葉を大事にされていきました。料理の技術だけでなく、人間への限らない慈愛が原動力になっているわけで、モノをつくる姿勢としては私どもも大いに見なりたいと思います。

今号の揮毫は「赤誠先手」。一点の曇りなく、真心、誠の心をもってこれからも皆様のお役に立っていただければと願っています。

※赤誠先手 赤誠は偽りや嘘がない誠のこころ。人の喜ぶこと、役に立つことを先に先に行っていくこと

「幸せ」を見つけるヒント ——— 11月

「5S」プラス「5S」

企業などで「5S活動」が推進されています。

「5S」とは整理、整頓、清掃、清潔、躰（しつけ）をアルファベットの頭文字Sで著したもので、工場や店舗、病院、官庁など幅広く導入され効果を発揮している活動です。業務効率化、職場環境の改善、安全性の確保につながりますから、これら5項目の遵守度などは、適宜、再評価・再点検は大事なものです。

さらに新しい視点での「5S」も提案します。「Simple（シンプル）」。たとえば作業手順など一読

してわかるような明快さが大切。そして「Sharp（シャープ）」。仕事の本筋を見落とさず問題点をしっかり把握することも肝要。さらに「See（シー）」。漠然と見るのではなく細かく観察することも大事。「Share（シェア）」は、皆を巻き込む、心をひとつにすること、そして最後、もしくはこれを最初にもってきてもよいかもしれません。「Shot（ショット）」です。よい狙い、狙いがずれていたらすぐに修正が必要……。

従来の「5S」プラス新しい「5S」でより公私ともに充実させていきましょう。

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭

材木正己

